

『危険な年』(The Year of Living Dangerously) 鑑賞資料 (updated 2010-12-03)

1. 作品について

- 『危険な年』(The Year of Living Dangerously)。1982年。カラー。117分。英語。日本語字幕付き。
- 監督:ピーター・ウェアー (Peter Weir)
- 脚本:Christopher J. Koch、Peter Weir、David Williamson
- 原作:C. J. Kochの小説The Year of Living Dangerously (Penguin 1978)
- 主な配役:
Linda Hunt Billy Kwan (第56回アカデミー助演女優賞受賞)
Mel Gibson Guy Hamilton
Bembol Roco Kumar
Michael Murphy Pete Curtis
Noel Ferrier Wally O'Sullivan
Bill Kerr Colonel Henderson
Sigourney Weaver Jill Bryant

2. 監督について

オーストラリア出身。オーストラリア製作のPicnic at Hanging Rock (1975)で成功。1982年の本作以降、活動の場をアメリカに移す。主な作品:「刑事ジョン・ブック／目撃者」(Witness 1985)、「今を生きる」(Dead Poets Society 1989)、「グリーン・カード」(Green Card 1990)、「トゥルーマン・ショー」(The Truman Show 1998)「マスター・アンド・コマンダー」(Master and Commander: The Far Side of the World 2003)。

3. 物語のあらまし

オーストラリアのABS放送記者ガイ・ハミルトンは初めての海外任務で、1965年、スカルノ政権末期の緊迫したジャカルタに派遣される。ハミルトンの前任者と仕事をしていたカメラマン、ビリー・クワンは彼が気に入り、仕事を助ける。クワンの紹介でハミルトンはイギリス大使館勤務の若い女性ジル・ブライアントと知り合い、そのクールな魅力に引きつけられる。ブライアントが勤務中に重大な情報入手し、ハミルトンに伝えたことから、二人はインドネシアを震撼させた政変の渦中へと巻き込まれる。

4. 舞台と登場人物

- ジャカルタ市。(地図)
- 登場人物(ほぼ登場順)カタカナ表記は字幕の表記を優先。

ビリー・クワン	ガイ・ハミルトンのために働くフリーランスのカメラマン。中国系オーストラリア人。
ガイ・ハミルトン	オーストラリアのABS放送からジャカルタ支局に派遣された新人記者。父親はアメリカ人。オーストラリア人。
クマル	ABS放送ジャカルタ支局で働くインドネシア人アシスタント。
ピート・カーティス	ワシントン・ポスト紙記者。アメリカ人。
ノエル・フェリアー	シドニー・ヘラルド紙記者。オーストラリア人。
ヘンダーソン大佐	イギリス大使館付き武官。ジル・ブライアントの上司。イギリス人。
ジル・ブライアント	イギリス大使館職員。ヘンダーソン大佐の部下。イギリス人。

5. 作品の背景

- 冷戦/ベトナム戦争 (用語集参照)
- スカルノ政権/ナサコム体制 (用語集参照)
- オーストラリア (用語集参照)

6. 物語を理解するためのポイント

1) インドネシア

- 正式名称はインドネシア共和国。人口2億3845万人、陸地面積183万平方キロ。スマトラ島、ジャワ島、バリ島、カリマンタン島、スラウェシ島などの大小17,000(6,000の有人島)島々からなる。人口の60%はジャワ島に集中。60ないし250の民族から構成されている。主な民族:ジャワ人45%、スンダ人14%、マドゥラ人7.5%、マレー人7.5%。他にミナンカバウ人、ブギス人、バタック人、バリ人、華人など。

2) ワヤン・クリ

- ジャワでは『マハーバーラタ』に由来する物語が愛好される。(用語集、図参照)
- アルジュナ:『マハーバーラタ』の主人公の一人。ハンサムな二枚目。武勇に秀でるが、女性との多彩な

遍歴でも有名。

・スリカンディ:『マハーバーラタ』の主人公の一人。気丈な美女。ワヤンに登場する女性としては例外的に武勇に秀でる。アルジュナに一目惚れし、彼に近づくためにアルジュナから弓術を学び、ついに第二夫人となる。

・スマル:ジャワ独自のワヤン・クリの登場人物。ジャワの土着的神格のシンボル。背が低く、太ってみにくいが、その腹の中にはジャワの伝統的な知恵が詰まっているとされる。

7. 作品のポイント

- 1) 社会・政治的視点
- 2) 異文化の中の孤立感
- 3) ロマンズ
- 4) 人間としての生き方。正義。

参考:映画評 <<http://www.imdb.com/user/ur1080151/comments?order=alpha&start=130>>

Peter Weir's movie, set in Sukarno's Indonesia in 1965, can be seen as four films in one. The first is socio-political, focusing on the plight of the impoverished Indonesian people, the impending insurrection by the communist movement, and the bloody, chaotic aftermath of the coup. The second, coloured in Graham Greene-ish tones, has a cast of western journalists and diplomats failing to make sense of what's happening around them, and falling back on sex, drink and cynicism. The third - and most important in commercial-cinema terms - is a convincingly acted romance between rookie foreign correspondent Guy Hamilton (Mel Gibson) and British diplomat Jill Bryant (Sigourney Weaver), culminating in an unlikely and sentimental ending to the film.

But it is the fourth of these "sub-movies" which is the most intriguing; this concerns the diminutive and enigmatic Australian/Chinese photographer Billy Kwan, an astonishing - and Oscar winning - portrayal by actress Linda Hunt. Billy sees himself as a puppet-master, pulling the strings of friends and colleagues, particularly of Jill and Guy, whom he throws together. But his need to take control also motivates him to help local people, not through indirect and political means, but directly like an early Christian, and this apparently benign course leads to tragedy. Billy is the true heart and conscience of this film.

8. 作品を理解するためのミニ事典（五十音順）

9月30日事件(きゅうさんまるじけん)	9.30とも。1965年9月30日から10月1日にかけて発生した軍事行動。親共産党派の大統領親衛隊長ウントゥン中佐が指揮した反乱軍は、ヤニ陸軍参謀ら6人の將軍を拉致し殺害したが、陸軍戦略予備軍司令官スハルト少佐の部隊によって鎮圧された。内乱鎮圧後、スハルトは対共産党弾圧をおこし、インドネシア共産党は壊滅し、アイディット書記長ら党幹部が処刑されただけでなく、党シンパとされた多くの市民が虐殺(華人を含む30-50万人とされる)、流刑、拘留された。事件後、スハルト政権は中国と国交を断絶。スカルノ政権の対マレーシア対決政策を放棄して関係を修復し、ASEAN結成への道を進んだ。
ABC	Australian Broadcasting Corporation. オーストラリア放送協会。1932年に設立されたオーストラリアの公営放送。映画中のABSのモデル。
アイディット	Dipa Nusantara Aidit. 1923-65年。1950年代から60年代半ばまでのインドネシア共産党の最高指導者。1953年に書記長就任後、大衆路線を推進して党勢拡大に貢献。スカルノ大統領のナサコム体制の一翼をになった。9月30日事件直後に射殺されたとされる。
インドネシア共産党	Partai Komunis Indonesia (PKI)。1920年に結成されたがオランダ政府によって弾圧。1945年に再建。1950年代以降アイディットを中心に勢力を拡張し、スカルノ大統領の支持勢力としてナサコム政策の一翼をになった。公称黨員数360万人を誇ったが、1965年の9.30事件を契機に解体され、翌年非合法化された。
オーストラリア	Australia。イギリスの入植地として発展。1901年にオーストラリア連邦を結成。1973年まで移民制限法(白豪主義)があった。非白人の国インドネシアに隣接する白人の国家として独特の位置にある。インドネシアを「北方の大国」として意識する一方、旧宗主国イギリスに対する植民地意識、第二次世界大戦後に太平洋地域の覇者となったアメリカ合衆国に対する反発意識などが見られる。

ジャカルタ	Indonesia。インドネシアの首都。ジャワ島西部の北岸に位置するインドネシア最大の都市。オランダ時代にはバタビアと呼ばれた。北部のジャワ海に面してタンジュン港がある。
スカルノ	Sukarno. 1901-70年。インドネシア独立の父。東ジャワ出身。バンドゥン大学卒業。若くからオランダ植民地支配に対して独立を主張する民族主義者として政治運動に参加し、大衆的な支持を得るが、投獄、流刑にあう。日本軍によって解放されて政界に復帰。1945年8月17日にハッタとともにインドネシアの独立を宣言。インドネシア共和国初代大統領に選出される。1950年代末に政党政治が破綻すると「指導される民主主義」を掲げ、軍と共産党の勢力拮抗の上に立って、独裁的なナサコム政策を推進し、対外的にはマレーシア対決を展開したが、国内の経済は低迷し、9.30事件によって失脚した。
中国関係	1946年に成立した中華人民共和国とインドネシアの関係は1955年にバンドゥンで開催されたアジア・アフリカ会議の成功で緊密化した。インドネシア共産党を支持勢力としたスカルノ政権は中国との関係を深めたが、9.30事件にインドネシア共産党と中国の関与が疑われたことから両国の関係は悪化し、1967年に外交関係が断絶した。1980年代から関係が改善し、1990年に国交が回復した。
ナサコム	NASAKOM。ナショナリズム (Nasionalisme)、宗教 (Agama)、共産主義 (Komunisme) の頭文字で作った略語。1950年代末以降、独裁色を強めたスカルノ体制を支えたスローガンの一つ。インドネシア国民党を中心とする民族政党、ナフダトゥル・ウラマ党を中心とするイスラム系政党、インドネシア共産党の三者のみが存在を許され、一丸となってスカルノ体制を支えることを言う。
ベトナム戦争	アメリカに対するベトナムの民族解放戦争。1954-75年。1954年のジュネーブ協定によってベトナムは南北に分裂。アメリカ合衆国は南ベトナムを支援し、南北統一を図る北ベトナムとの間に戦争が勃発した。1965年に南ベトナムへの米軍の派遣と北ベトナムへの恒常的な爆撃 (北爆) によってエスカレートした。1975年に南ベトナムの崩壊によって終結した。
ホテル・インドネシア	Hotel Indonesia。『危険な年』の舞台となったジャカルタのホテル。「ハー・イー」(H.I.) の略称で知られる。日本の戦後賠償の一環として1962年に竣工した14階建てのホテル。スカルノ時代にはジャカルタ随一の近代的高層建築として際立っていた。2009年に新装開店した。
マレーシア対決	Konfortansi (対決)。1963年、イギリスから独立したマレーシア連邦の成立に対して、スカルノ政権が、イギリスによる「新植民地主義」として反対した対決外交路線。国内の経済混乱に対する国民の不満を外にそらすための外交政策であった。インドネシアはサラワク (ボルネオ島北西部) やマレー半島に軍事作戦を展開したが成功せず、インドネシアは国際的に孤立。1965年1月国連を脱退。中国共産党と接近を深めた。9月30日事件でスカルノが失脚し、67年にインドネシア・マレーシア両国の国交が樹立した。
冷戦	cold war。第二次世界大戦後、1980年代末まで、アメリカを中心とする資本主義陣営 (西側) とソ連を中心とする社会主義陣営 (東側) との間に続いた、全世界的な緊張・抗争状態。局地的な「熱い」代理戦争はあったが、両陣営の直接的な対決はなかったために「冷戦」と呼ばれた。アジアでは1975年まで続いたベトナム戦争が熱い戦争となった。
ワヤン・クリ	wayang kulit。インドネシアでとくにジャワ人が愛好する伝統的な人形影絵芝居。人形遣い (ダラン) が水牛の皮で作った人形を操り、白い幕に投影された影を鑑賞する。ガムラン (青銅製打楽器を中心としたオーケストラ) が伴奏につく。物語の多くは、インドのヒンドゥー叙事詩『マハーバーラタ』に由来する。

9. 参考文献 (ABC順)

映画大辞典。〈<http://www.jtnews.jp/dict.html>〉

後藤乾一、山崎 功。『スカルノ:インドネシア「建国の父」と日本』(歴史文化ライブラリー117) 吉川弘文館, 2001.

The Internet Movie Database。〈<http://www.imdb.com/>〉

キネマ旬報全映画データベース。

〈<http://www.walkerplus.com/movie/kinejun/index.cgi>〉。

- 松本 亮. 『ワヤン人形図鑑』めこん, 1982.
 宮本謙介. 『概説インドネシア経済史』有斐閣, 2003.
 佐藤忠男. 『映画の真実』(岩波新書)岩波書店, 2001. とくに第7章「国際理解と映画」.
 白石 隆. 『スカルノとスハルト:偉大なるインドネシアをめざして』(現代アジアの肖像11)岩波書店.
 1997.
 土屋健二・他(編). 『インドネシアの事典』同朋舎, 1991. インドネシアの全般的情報.

10. 図 ワヤン人形: 左からアルジュナ、スリカンディ、スマル



11. 地図

